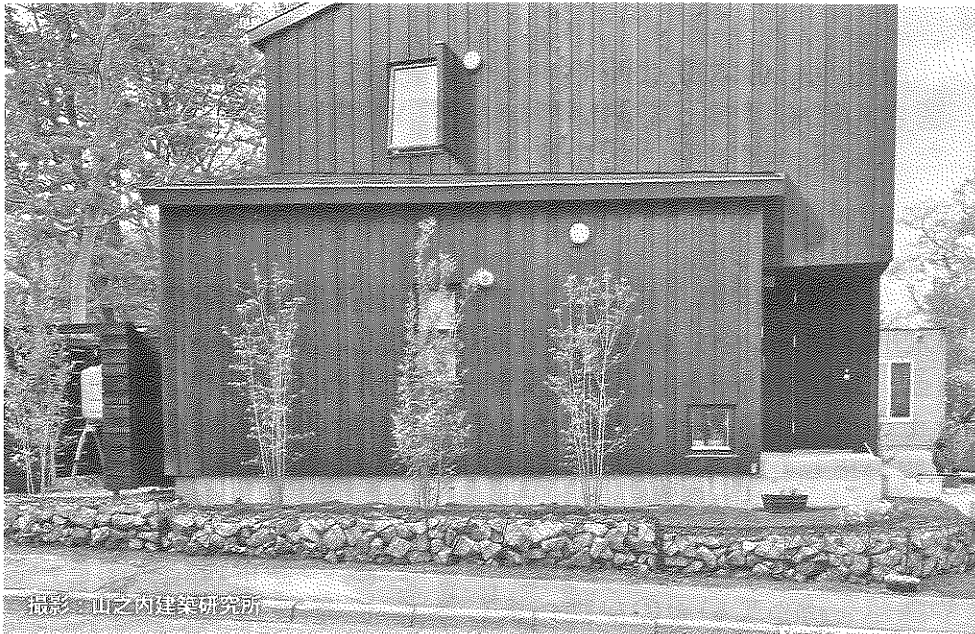


ブロック造住宅の系譜



撮影：山之内建築研究所

蛇籠のある庭

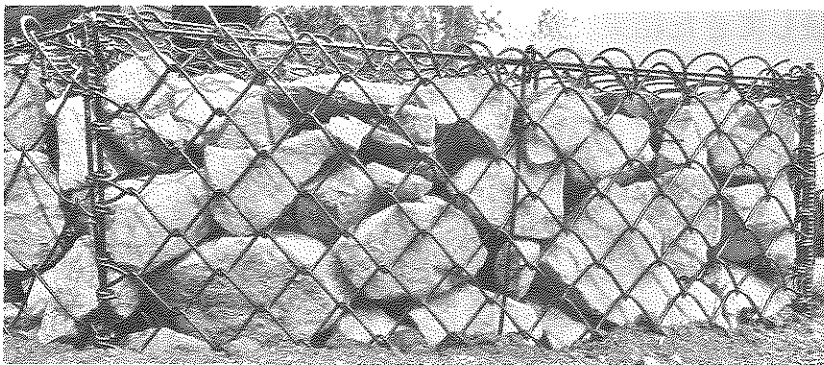
住宅庭の植込み擁壁を自然素材でつくりたいと考えた。住宅敷地は道路と最大700mmの高低差があり、また風致地区内にあるため、

3m以上の建物後退が求められていた。そこで建物外壁と道路との間に植栽帯、つまり植込みが計画された。植込みは植栽と擁壁とで構成される。植栽は植物、だから季節ごとに様々な表情を見せ、時間

とともに成長し、時間を経て老いる。擁壁も植栽同様、時間とともに味わいが深まるようにしたいと考えた。

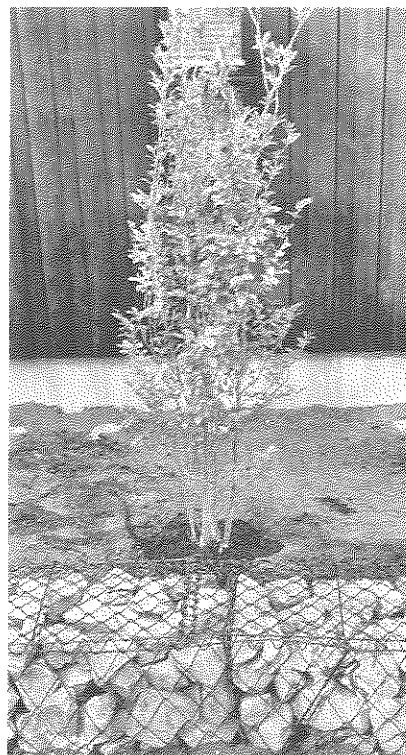
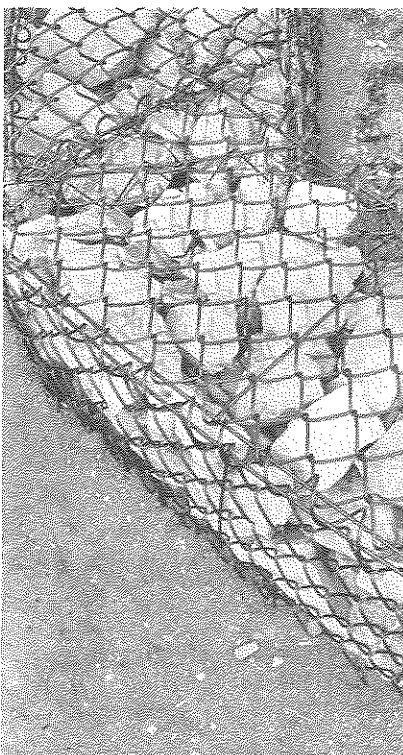
植栽と同調する擁壁をイメージした中で、前回紹介したバルセロナの都市公園の例が浮かんでいた。バルセロナの例はD10以上の異形鉄筋を縦横に組む直線的な構成。中詰石は地中海の石灰岩のように見えた。

今回の蛇籠は、「パネル式ふとんかご」、工場生産されたユニットを



現場で組立て施工が比較的容易に可能だ。蛇籠は一般的な土木材料で地場に製造業者も存在している。中詰石は花崗岩の砕石で、もちろん地元産。現場作業は基礎根掘りから石詰めまで、使用機械は小型のバックホーのみ、天候に左右されず短期間で施工できた。中詰石に押されて柔らかく膨らむ蛇籠で

つくる植込み擁壁は、敷地周りの緑と同様に直線的ではない自然な雰囲気住宅庭にもたらしめている。(山之内裕一・山之内建築研究所)



宮の森の家

所在地：北海道札幌市中央区
 主要用途：専用住宅
 構造規模：木造、2階建
 延床面積：119.10㎡
 設計監理：山之内建築研究所/山之内裕一
 施工：小杉建設/輪島慎也・杉山紀行
 竣工：2021年1月